

Rally+ 特別編集

2026 FIA WORLD RALLY CHAMPIONSHIP ROUND 7 RALLY JAPAN 2026 速報

ラリージャパン2026

特別付録
ラリージャパン2026
全出走車
大判ポスター



トヨタが2年連続の
表彰台独占

WRC2はランチアが制す。山本は初表彰台!



勝田、届かず。

初日失速の原因を徹底分析

トヨタGRヤリス／ヒョンデi20N／フォード・プーマ
ラリー1・ターマック最終仕様を詳細解説
コクピットドリル／ランチア・イプシロン・ラリー2



サミ・パヤリ&ヘイデン・パットン
名古屋を堪能



揺るぎなく、 チームブリッド、二階級制覇

ラリージャパンには、WRCやWRC2、WRC3といった選手権部門のほか、JAFの車両規定をベースにロールオーバーや燃料タンクなどの安全装備がFIAの安全要件を満たすナショナル部門が設けられている。今年はこのナショナル部門に、7台のラリーカーが出場。そのなか、JR1クラスにブリッドカラーのトヨタGRヤリスが、JR3クラスに同じくブリッドカラーのトヨタ・ヤリスが出場した。

地元でつかんだ栄冠

GRヤリスで出場する佐々木康行は、2022年の第1回大会から5年連続で出場。愛知県豊田市出身で、TGRラリーチャレンジの前身となるTRDラリーチャレンジ、さらにその前身となるヴィッツチャレンジの頃からラリーに出場していた佐々木は、「いつかWRCに出てみたい」という漠然とした夢を持っていたのですが、それが地元開催となればいつでもたつてもいられず、思い切ったGRヤリスを購入してラリージャパンに出場できる仕様に仕立てました」という。今回は、同じくWRCやダカールラリーに出場したいという夢を追いかける大塚祐樹をコ・ドライバーに迎え、コンビを組んだ。

「ラリー期間中も、毎日自宅からサービスパークのある豊田スタジアムに通っています」という佐々木は、「デイ2の小原SSは、地元中の地元なんです。友人はもちろん、近所のおじいさんやおばあさんにも応援をいただけて、今年も走るのが楽しみです。完走第一で、無理せず今年のラリージャパンを楽しんでいます」と抱負を語ってくれた。

ラリー中は、縁石にヒットしてホイールを曲げたり、ミツシヨンオイルが漏れて「室内のオイル臭がすごく、最後まで持つか心配でした」というアクシデントに見舞われながらも無事に完走。ナショナル部門JR1クラス優勝を飾った。

「完走ベースといえども、抑えすぎず攻めすぎずに3日間を走り切るのには本当に大変でした。最初の1、2年はそのベース配分が分からず苦労しましたが、最近ようやくベースをつかんだ感じです。沿道には子どもたちもたくさんいて声援を送っていただけたのがうれしかったですね。」

シートは大型のヘッドレストを装備した車検適合モデルのXERO RS PLUSを装着しているのですが、全身が包み込まれている感じがすごく良いです。SS中に身体をガッチリとホールドしてくれるのは

ラリージャパンのナショナル部門でひときり目立つシートメーカー「ブリッド」のカラーをまとった2台
2022年から継続して参戦する佐々木康行
全日本ラリー選手権でも活躍する小川剛の戦いを追った

Text/RALLY PLUS
Photos/Hiroaki Ibuki, Jun Urano, Kentaro Shirahata

頂点へ



地元出身選手として2022年からラリージャパンに参戦を続ける佐々木。総走行距離900kmを超えるラリーでの戦いを支えるブリッドのシートに絶大な信頼を寄せている。





終始好ペースでJR2クラスをリードした小川剛。最後の最後でヒヤリとする場面もあったが、コ・ドライバーを務める山本祐也とのコンビネーションで乗り切った。



もちろん、リエゾン中も疲れない点
はありがたいですね。距離が長いラ
リージャパンですが、運転に集中し
て快適に過ごすことができました」と、
ラリーを振り返った。

終盤の波乱を越えて

一方、国際格式のラリーに出場す
るのは2002年のAPRCキャン
ペラリー以来となる小川にとつて、
今回は波瀾万丈のラリーとなった。
全日本ラリー選手権では24年からコ
ンビを組む山本祐也と出場した小川
は、デイ1のSS2で、名物セクシ
ョンとなっていた伊勢神トンネルを
抜けたあたりでフロント右のロワア
ームのボルトが抜け、あわやリタイ
アの危機に見舞われる。

「まっすぐ走らない状況でしたが、
ゆっくり走ればなんとかなる状態。
順位は気にせず、ひたすらサービ
スを目指しました」とSS2の後半、
SS3でスロー走行を強いられる。

だが、SS3後のサービスで修復し
た小川は、SS4から本来の速さを
発揮。デイ2を終了した時点で、ナ
ショナル部門JR3クラスでは2番
手を12分以上引き離すトップに立つ。

だが、ラリー最終日の最終SSと
なるパワーステージで、まさかのア
クシデントに見舞われた。

「クラス優勝が目標だったので、ラ
リー最終日は完走ペースで走ってい
たんです。ところが、最後のパワ
ーステージで、神社クシジョンを通
過したあたりからギャラリーがたく
さんいて、ちよつといいところを見
せようかなと思ってコーナーを攻め
たんです。そうしたら、ラリー1や
ラリー2がインカットしてまぎ散ら
した土や砂利が散乱していて。吸い
込まれるようにアウト側の排水柵に

落ちてしまつて……。完全に調子に
乗っていました」と、左側のフロン
トとリヤのタイヤを同時にパンクさ
せてしまう。搭載しているスベアタ
イヤは1本だ。

「2本積むという作戦もありました
が、『ワークスが1本だから、オレ
も1本』って。これもまた調子に乗
っていました」と、最後の最後にリ
タイアの危機に襲われる。

「とりあえずスベアタイヤをフロン
トに装着して、リヤはパンクしたけ
ど程度の良いタイヤを装着しました。
リエゾンでリム落ちてホイールだ
けになると失格になる恐れがあるの
で、とにかく2位の選手とのタイム
差を計算しながら、ゆっくりとサー
ビスに帰りました。コ・ドラの山本
選手が『大丈夫、このペースなら1
位のままで帰れる』と、ここ一番で
最高の仕事をしてくれました」と、
土壇場のアクシデントを乗り越えて、
JR3クラス優勝を果たした。

「僕も佐々木選手と同じくシートは
XERO RS PLUSなんです。身体
のホールドはもちろんのこと、
大型のヘッドレストがしっかりと頭
をホールドしてくれるんです。特に
ラリージャパンのステージは、クネ
クネ道の超テクニカルセクシジョンで
は常に頭を左右に振られるし、高速
セクシジョンではものすごく頭にGが
かかるんですが、そういったシー
ンでも頭をしっかりホールドしてくれ
るのは、ドライビングにも大きく影
響していると思います」という小川
スバル・ヴィヴィオの2台体制で出
場した24年前のキャンペラリーで
はクラス1・2フィニッシュを飾り、
今回のWRCラリージャパンでもJ
R3クラス優勝と、しっかりと結果
を残した。



今回が初めてのラリージャパンとなった小川。「波瀾万丈なラ
リーでしたが、やみつきになりますね」と笑顔でフィニッシュした。



佐々木はラリージャパンの前身となったセントラルラリー（19年、
21年）時代から参戦を継続。昨年に続きJR1クラスを連覇した。



2クルーとも装着していたのはフルバケットシート「BRIDE XERO
RS PLUS」。長丁場のラリーで選手たちの快適性・安全性を実現。

39号車 JR3/NAT 小川 剛(おがわ つよし) / 山本 祐也(やまもと ゆうや)



WRC FORUM8 RALLY JAPAN2026

ナショナルクラス JR1 / JR3
ブリッドヤリス W優勝!!

Congratulations!!

40号車 JR1/NAT 佐々木 康行(ささき やすゆき) / 大塚 祐樹(おおつか ゆうき)



XERO RS PLUS
スーパーアラミド製ブラックシェル
グラデーションロゴ



BRIDE SPORT & RELAXING SEAT
BRIDE CO., LTD.

ブリッド株式会社 BRIDE®は、ブリッド株式会社の登録商標です。
〒476-0015 愛知県東海市東海町1丁目11番1号
電話:(052)689-2611 ファクス:(052)689-2612



ブリッド&エディルプの最新情報は、こちら!

<https://brideseats.com>